

なおしきれない アホンダラ と こわれきらない ツヨツサク

大塚 隆夫

ぼくのチャリニコは、11までにパンクなしである。これは、すごいことだ。この前無パンクを誇っていたリーヨーがすり切れてトレッドがなくなつて、西尾にバカにされたので、ナショナルにとっかえた。更に無パンク記録は続くであろう。せいぜいパンクおぼんてのは、ちゃんと道を見ていて、とんがった石があつたら、マッハのタイミングでよければ、問題ないのである。つまりぼくのテクニックが光る、ピカピカ……ゴホッゴホッ(カゼをひいているのでセキが出る)。

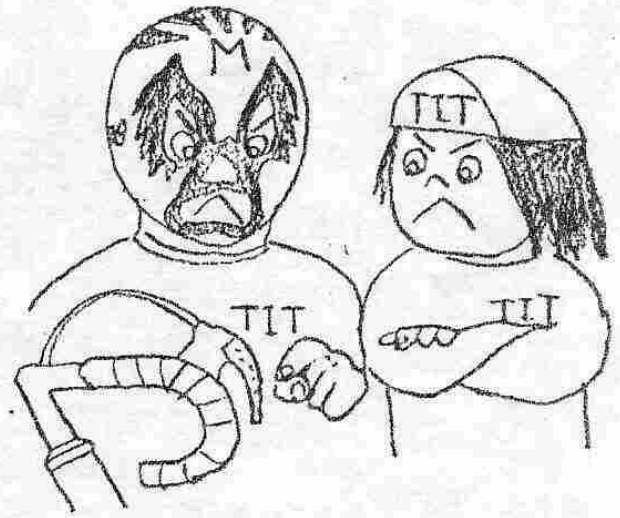
無パンク記録のほか、ぼくのチャリニコの優れている点をみなさんに理解していただくべき、ともに拍手を贈ろうではないか？
まずカラーであるが、ビーズブルーという非常に上品で力強く、華やかな色は、だれしも好感のもてるところであろう。この色に関しては、三浦がひどく共鳴してくれている。彼はとてもいいセンスの人固であると思う次第である。次にフレームであるが、フレームが大きいと、ドミフォニミだといふ一部のヤジがあるが、渡辺という専門家の口から「カッコイイ」という言葉が出たのは、うれもない事実である。フレームもだいいびキズが増えてしまったが、これは、キューキューの列車の中にも耐えたすえの、名誉の

負傷なのである。

オーダー時からの変更といえば、春にあった“整備合宿”なる
行事の際、なんだかワヤワヤ車に乗りこんで、チャリンコを整備
してんだが、車を竊めてんだがわかんないふうにして、5人ぐら
いで神金へ行って買ったブレーキレバーがある。以前は、クイッ
クもないダイコンをつけていて、

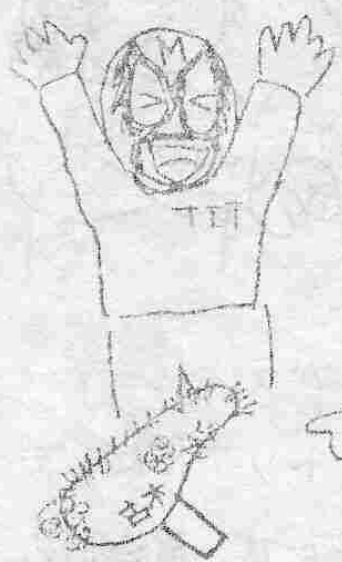
野崎さんに
文句をいってる図

輸送の際苦労して、いっしょにオ
ーダーした鈴木と、野崎さんのチ
ョイスに不平を言ったものだった。
あの時、まじめにボトムを整備し
ていた人もいたが、ぼくは夏合宿
でボトムがゆるんで、みんなにバ
カにされたにもかかわらず、ブレーキレバーを取っかえてパーテー
プをぐるぐるやっただけだった。それより先に、トリアルにした
のも変更点である。オーダー時は、49-32 だったが、夏合宿の
“とぼしっこ” などからもっとデカイのがほしい、と思っていた。
そこで、52-42-32 というキッカリ10枚差の、トリアル
のベストセレクトが、完成したわけである。見た目にも美しく、
マキニイのユニークなアームがビーズブルーに映えるのである。
52 から32 は、20枚も差があるためフロントこそユニペVに変
えたけれど、リヤは、オバケだ、幽霊だと言っている人々をシリ
Xにシマノ 600 はがんばっているのだ。



ぼくのフレームはデカイので、ブレーキレバーを変えた際に、
 ブレーキレバーを、リヤもフロントも、ともにリア側を装着した
 けど、フロントは流石に長く、クルクルと輪はしていったら、小島
 に笑われたが、無視したのだった。

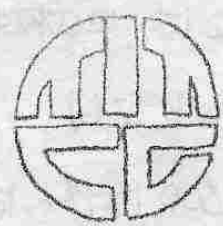
ペダルは11つ彫削したか覚えてないが、初代シオタードはシヤ
 ットがまばらでオシヤカ。現在は、ミカシマのクイルのブラック
 仕上のカッコイイのを付けている、が、ちなみに¥1500 であつた。



吉木のサドルを
 見てあげて
 いる図



先に、ボトムをあけたことがな
 いと書いたが、他の箇所も同様
 に、大した整備はしてない。
 にもかかわらず故障らしい故障
 もなく、ペダルのカッキンコン
 さえがマンすりゃよく走って
 思う。ただ、梅雨越しの吉木
 のチャリニコのサドルにカビが生
 きていたのをあげて笑ったら
 ぼくのためにもカビがいたのでど
 ックリした、という出来事はあ
 ったけども。とにかく整備しな
 いというが、整備しなくてもよ
 く走るというが、神金ペガサス
 ベースブルーはとてもよく走
 ったチャリニコであるというの
 は否めずいい車である。



T.I.T. C.C. Co. Ltd